



第34号

毎月1回発行 発行所 秋田県北秋田郡 秋田吉森 編集責任 森吉町役場総務課 44番 64番 209番 TEL 米内沢



退任御挨拶

金 爲 助

県内町村合併のシンガリを受け、我が森吉町の設置は昭和三十一年九月三十日、首長選挙は其年十一月をもつて行われ、不省老骨をもつて就任したこの間満四十年に渉り町民皆さんに奉仕させて頂いたことは、誠に名譽とし且つ光榮に存するものであります。

十七日をもちまして愈々満期退任となりバトンを若し清新の近藤富治郎氏に引継ぐことになりまして誠に喜びにたえない、今靜かに過去を顧みればまた感慨無量なるものがあります。旧米内沢町以来約五年間、公私共甚大なる御支援と御鞭撻を下さいました御厚誼と、役場内職員諸君の御努力に対し、心から御礼申上ぐる次第であります。

顧みれば、昭和三十年日榮山人が米内沢町長を引受け、私が助役として町村合併に対する米内沢町の基本方針を決定し「新規町村構想ありまし」と云うパンフレットを出し、専ら其方針で進んで来た。それが北林町長に引継かれ新町の初代町長として私が就任したので、それが其儘新町森吉町の施政方針となつた。

昭和三十年十二月十五日付「町報米内沢」に掲げた合併後の重点施設、並に産業から其あらましを拾つて見ると次の様なものである。無論是は阿仁部大合併を予想してのことである

- ①道路網の完備
②医療機関の充実
③米内沢病院と各診療所の連絡
④、鷹巣保健所米内沢支所の充実
⑤、公衆衛生の向上
⑥、公衆衛生の向上
⑦、公衆衛生の向上
⑧、公衆衛生の向上
⑨、公衆衛生の向上
⑩、公衆衛生の向上

以上の様なものである

そして私の就任と共に、議会に発表した施政方針は未開発地域の機会均等と、振興発展で前田地域では小又奥地、米内沢地域では大野台を重点的に取上げた

此の爲め森吉支所設置、併用林道の継続、森吉バス道路の実現、森吉診療所、前田保育所の設置、肥育組合設立、八幡橋の永久橋化、老朽小学校の建築等を掲げ、一般面では特に赤字解消、即ち財政再建整備を力説した。

併し何事もだが、特に行政上の問題などは一人、二人の努力奮闘だけでは実現されるものではない、議会始め町民一致の支持協力によらぬ限り、否な寧ろ関係官庁の指導と国会や県会の議員の方々の同情と、斡旋配慮に待たねばならぬ、よし実現しても決して個人的功名でないことを強め申上げて置く。

森吉バス路線は議会から町長の生命線だと励まされ、専用の碎石機も買ひ砂利トラックも備えた、数度の災害を受けてサイの河原と思つたが、両三年で辛うじてバス運行も出来た、営林局関係の配慮で併用林道が年々継続され、あの難関道なき途が小滝迄延長され、奥地程立派な永久橋が架設を見た。あと湯の傍迄二ヶ年の事業量で、是が出来たら県内有数の観光地となる

ことが明かである。森吉支所が不要になつて、国庫補助でへき地診療所に改造した、惣瀬沢園有林六四町歩が新町建設の基本財産として掛けを受け四、九五八〇万円の納金を一銭の起債もせずに即納が出来、そして土地と幼令林が残つた、今更に此隣接園有林と砂子沢ダム周辺の町有林一八〇町歩との、交換の陳情が行はれて居るから町民一致協力、森林経営で明るい新町建設に邁進せねばならない。

前田診療所には厚生省の補助で診療車を買ふことが出来たし、前田保育所は十四日工事を入札した、神成の簡易水道は早く出来て今は米内沢五、〇〇〇人の水道工事が完成しようとして居る。何れも補助や起債の恩恵によるもので、公衆衛生施設の端緒である。モダン八幡橋は阿仁川の誇りで七角やひる様の景勝を背景に来年から起工予定の、前田小三階のコンクリート校舎が出来たら、阿仁前田も近代都市的な感覚を与へるであろう、巻瀨橋は木橋だが新町建設の施設事業として架替に成功し、浦田橋は既に入札を終り北林組が着手するばかり、続く阿仁比内縦貫道路、即ち比内桂瀬線は此度県道の認定を受けて、十和田の観光国道に繋がるから此永久橋もやがてモダンな姿を現はすであろう

米内沢地区では縦貫工事の都市計画やら、舗装工事、阿仁川河川改修では難航の米内沢木材会社工場の移転によつて、堤防工事の前途に明るい見透しがついた

大野台の国営特殊開発が合川の都合で留保されているが、開拓道路の改善工事は既に二ヶ年に渉り施行され、三十六年度で完了する予定となつた。

日榮松榮に森吉町ホルトラクター耕作組合が生れ、農林省から共同作業のトラクター及附属機械が貸付なり、種子馬鈴薯用、畑地耕作等に大いなる便宜恩恵を受けて居る。大野台の米内沢小学校大沢分校の屋体が、今月一ぱいで竣工、是れで大野台へき地教育の懸案も解消したが、二年も公約をそむいた罪は何とも申訳ない。

元来町長というのは以上述べた様に、町行政という重大なる任責の大貨物を満載し走る車輪の心棒で、耐久年数一応四ヶ年、其重積の大貨物に折れる様なことなく、たわむことなく、無事故に走る商売であらう。私の任期中一番苦しんだのは所謂白業自得とは云ひ乍ら、合併のシヨリと云うあの泥沼を新町建設と云う重責を負ひ、空転二ヶ年を過ごしたことである。

今一つは借金、所謂町債の重責で、財政再建整備法という梓詰めの起重機であつた。それにもう一つは大きな袋、所謂大袋(滞納)で税金の片割れであつた、これには流石の心棒も折れるか、曲るかの限界すれ／＼の苦しみであつた。

併し有りたいことには、再建整備法の枠も三十五年で(三十七年迄の処繰上げた)終了するし、税金の片割れの大袋も関係職員努力奮闘で再建整備計画の通り順調に縮少して居る次第であります。たゞ心苦しいのは前田地区都市計画事業の進歩がはか／＼しくないので、一部分ではあるが、ガンとなつて大手術を要する状態に立至つたこと、新町長に対し申訳なく思つてゐること、又七千万円を要する前田小学校の改築計画で、三十六年度から三ヶ年か、四ヶ年の年次計画(補助起債とらみ)となるが、是れこそ町民皆様の理解と、協力を得るにあらざれば新町長の心棒も折れたらおそれがあるから、私からもひたすら御後援を御願ひ申す次第であります。

最後に兄金作之助の歌と、合併協議会に病床から一同に送つた書面を紹介してかく筆する(老軀挺身) ほかからに死なんとそ思ふ阿仁郷土 一円一環の開発のため

合掌至平 ねはん経に曰く「法によつて人によらざれ」法とは今、合併の法規精神です。人とは理事者を主とした有識です。然るに今日の人は必ずしも明日の人にあらず、区々たる感情を洗除して至平熟慮、悔なからんことを。阿仁部は秋田県に於ける第一の醜体、この場合心気一転、大乗の見地にたゞれたし 今や文化史的発展、飛躍して財政的見地よりも産業経済、文化教育の施設においても、国家的基盤となり桃源の夢をゆるさず、大域は第一の要件となつた、割拠の小乗的卑見をさりとて、よろしく御考慮懇請失言多謝 恐々敬具 金 作 之 助

新町長に近藤富治郎氏当選

近藤 町 長



昭和三十一年執行の八〇町長選挙、四九%を超える好調であつた。開票の結果は四、四八一票で近藤富治郎氏の当選、票で近藤富治郎氏の当選が確定した。

任期満了による町長選挙は、去る十一月六日執行された、投票率は八八、尚議員補欠選挙も定員三三%を示したが先回(名を同時に行いました)

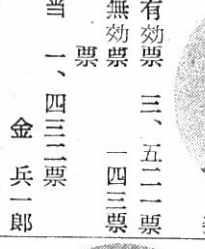
四、候補者得票

- 近藤富治郎 二、八一六票
奥田安太郎 九票
田島 正止



金 兵 一 郎 氏

〇前田地区



森 沢 夫 氏



小 野 茂 七 氏

- 有権者八、四四四名
男 四、〇四八
女 四、三九六
投票した者七、四四二票
男 三、五五六
女 三、八八六

- 総投票数七、四三三票
〇議員補欠選挙
有効票 七、三〇六票
〇米内沢地区
無効票 一二七票
総投票数三、六六四票

- 有効票 三、五二一票
無効票 一四三票
当 一、四三二票
金 兵 一 郎
当 一、一四一票
森 沢 夫 氏
次 九四八票
千 葉 忠 雄

- 当 二、三五六票
小 野 茂 七 氏
次 一、二六五票
長 谷 川 啓 蔵

一会の皆様へ (註)此書面は阿仁部大合併協議会の時、町長及、議会関係の方々に宛てたもの

